

## 「北海道バイオガス研究会シンポジウム2017」を開催しました

資源保全チーム

平成29年10月11日(水)に当研究所講堂において、北海道バイオガス研究会と国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所との共催で標記シンポジウムを開催しました。本シンポジウムは「北海道におけるバイオガスプラントの普及と課題について」と題し、バイオガスプラントによる家畜ふん尿の利活用について、これまでの活動内容や研究成果の報告と討論を行いました(参加者54名)。シンポジウムでの報告、討論内容は下記の通りです。

- ・北海道バイオガス研究会のこれまでの活動を振り返って

北海道バイオガス研究会  
会長 松田従三氏

- ・北海道における新エネルギー導入拡大の取組～バイオガス関連～

北海道経済部産業振興局環境・エネルギー室  
省エネ・新エネグループ  
主幹 今西昌志氏

- ・バイオガスプラントを利用した家畜ふん尿利活用の現状と課題

北海道バイオガス研究会  
副会長 梅津一孝氏

- ・メタン発酵消化液の長期施用が草地土壌の理化学性に及ぼす影響

国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所  
研究員 桑原淳氏

- ・最近のバイオガスプラントの動向について

(株)土谷特殊農機具製作所  
専務取締役 土谷雅明氏

- ・乾式メタン発酵システムの特徴について

(株)ズコーシャ総合科学研究所  
アグリ&エナジー推進室  
室長 廣永行亮氏

- ・バイオガス電力買取政策の最近の事情

コーンズ・アンド・カンパニー・リミテッド  
顧問 金子孝文氏

- ・総合討論

オーガナイザー：北海道バイオガス研究会  
副会長 干場信司氏

最初に松田従三氏より、北海道バイオガス研究会がこれまで取り組んできた活動実績および研究会が果たした役割について報告があり、続いて今西昌志氏から、北海道におけるバイオガス関連の新エネルギー導入拡大の取り組みについて、具体的な事例を挙げながら説明がありました。梅津一孝氏からは、家畜ふん尿がバイオガスプラントで嫌気発酵された後の消化液利用について、肥料としての利活用のほかに、病原菌増殖抑制効果の可能性についての研究成果が紹介されました。また、桑原淳氏からは、草地での消化液長期施用による土壌理化学性の変化について報告があり、土壌の保水・排水性に重要な土壌団粒の形成量増加について、研究成果が紹介されました。

続いてバイオガスプラントの開発、運営に関わる民間企業の3名の方々から報告があり、土谷雅明氏からは、新規施設が増加している個別型バイオガスプラントについて説明がありました。また、廣永行亮氏からは、固形物の多いふん尿を原料とする乾式メタン発酵システムの開発状況について話がありました。金子孝文氏からは、バイオガスプラントで発生したバイオガスによる発電に関連し、バイオガス発電電力の買取政策に関する昨今の状況が報告されました。

最後に、総合討論が干場信司氏の進行で進められ、聴講者からの意見も取り上げながら議論が深められました。

(文責：中山 博敬)



総合討論の様子